



うつくしがはら  
**美ヶ原**

**再生  
目標**

美ヶ原高原の一部を人工草地化（昭和 30 年代）以前の亜高山帯の草原植生に復元

**DATA**

エリア：八ヶ岳中信高原国定公園  
所在地：長野県松本市、上田市、長和町  
着手：H17

**美ヶ原自然環境保全協議会**

概要：外来種牧草による人工草地化やササの繁茂に伴い、在来の亜高山帯植生が減少。草原性生態系の保全・再生を検討。



美ヶ原は、標高 2,000m 近い台地状の高原にあり、約 80 種類の高山植物が生育しています。

高原一帯には、古くから放牧や採草により草原が広がっていましたが、外来種牧草による放牧地の人工草地化や、草原へのシナノザサ、木本類の侵入により、在来の草原植物の生育地が失われてきました。美ヶ原の草原は亜高山帯の草原として希少であり、生物多様性の観点からもその保全は重要となっています。このため、在来の亜高山帯草原植生の再生とともに、

草原性生態系の保全・再生に向けた植生管理の仕組みづくりを進めています。



牧草地内に残存するグンバイツル



シナノザサの中に散在するヤナギラン（在来植物）

**自然再生の手法**

▶ ボランティア等の参画による亜高山帯の草原植生の復元→①②③

美ヶ原自然環境保全協議会の意見に沿って自然再生の候補地、事業計画を立案し、長野県環境保全研究所による再生手法の技術的検討を行いながら、自然再生事業を進めています。具体的には、亜高山帯の草原植生を復元・保全するため、外来種牧草やシナノザサの除去、放牧牛や人による亜高山帯植生への被食・踏圧被害防止を図るための柵の設置等を行っています。

**① 表土の流出防止**

踏圧等により亜高山帯の草原植生が失われた箇所において、表土の流失を防止するとともに、埋土種子や風散種子が発芽しやすい環境を整えるため、シート等による表土保護工を実施しています。



**② ササや外来種の除去**

在来植物の埋土種子の発芽を促進させるため、ボランティアと協働で外来種牧草やシナノザサの刈り取りを進めています。また、発芽状況等の植生回復状況をモニタリングすることにより、地域に適した復元方法を検討しています。



ボランティアによる外来種牧草の除去

**③ 牧柵の設置**

在来植物の回復措置を行った箇所等について、放牧牛による被食防止のため、牧柵を設置するほか、牧柵（写真右側）と人の立ち入り防止のための人止柵（写真左側）を二重に設置する手法を採用しています。



植生帯と牧柵・人止柵の設置状況